

「近居」について

－既婚者とその親との住まい方－

1. 「近居」の概念及び定義

本調査で「近居」とは、住居は異なるものの日常的な往来ができる範囲に居住することを指すものとしました。具体的には、住まい方を下表に示す時間距離で分類し、近居対象として、「同居」ではなく「車・電車で1時間以内」の範囲までとした。

図表 1 本調査における「近居」の概念整理

時間距離	同居	徒歩 10分以内	車で 15分以内	車・電車で 30分以内	車・電車で 1時間以内	車・電車で 1時間以上
近居対象	×	○	○	○	○	×

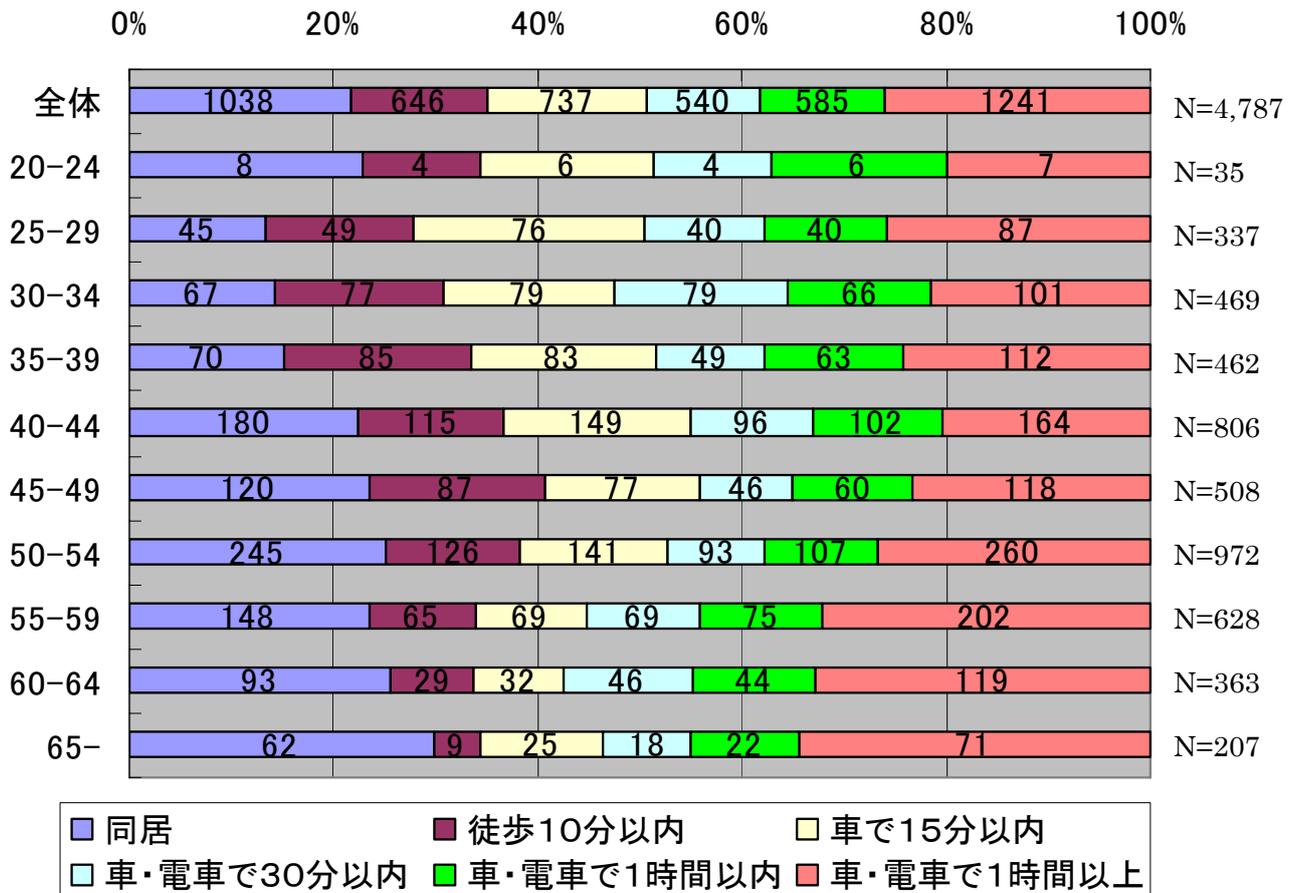
2. アンケート調査の結果

(1) 既婚者とその親との住まい方の実態

既婚者とその親との「同居」は全体の約23%、「近居」は約52%となっている。

全体的な傾向としては、介護等の理由から高齢世代ほど同居率が高く、65歳以上では約30%が親と「同居」している。

図表2 既婚者とその親との住まい方の実態

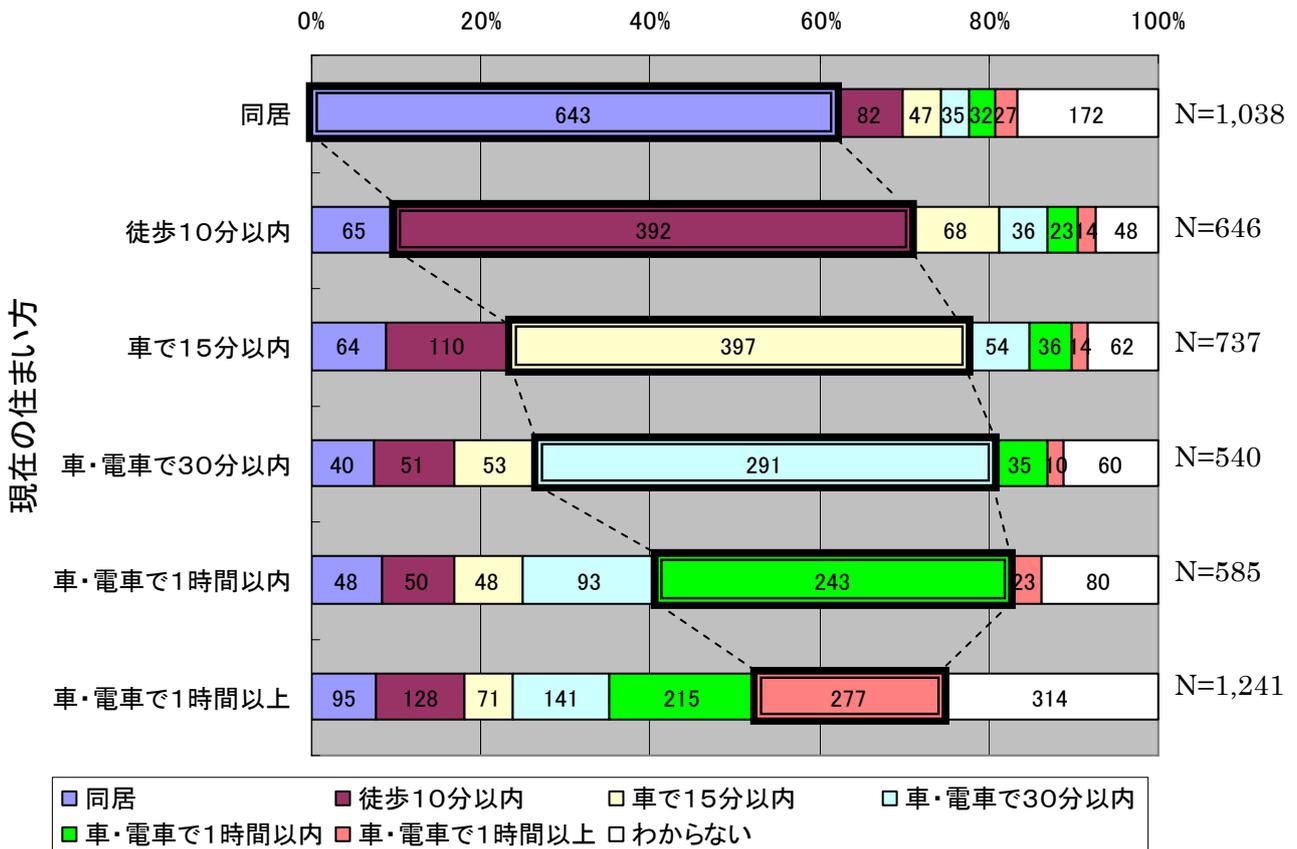


(2) 既婚者とその親との住まい方の将来意向

既婚者とその親との住まい方の将来意向を、現在の住まい方別にみると、すべての住まい方で、現状継続の意向が最も多くなっている。

非「同居」については、現状よりも近くに住みたいとの意向が強い。特に、現在「車・電車で1時間以上」に住む人の約52%が、将来は現状よりも近くに住みたいという意向を有しており、「徒歩10分以内」から「車・電車で1時間以内」の「近居」希望者が約45%を占めている。

図表3 既婚者とその親との住まい方の将来意向（現在の住まい方別）



注) 現状と同じ住まい方は太枠 表示

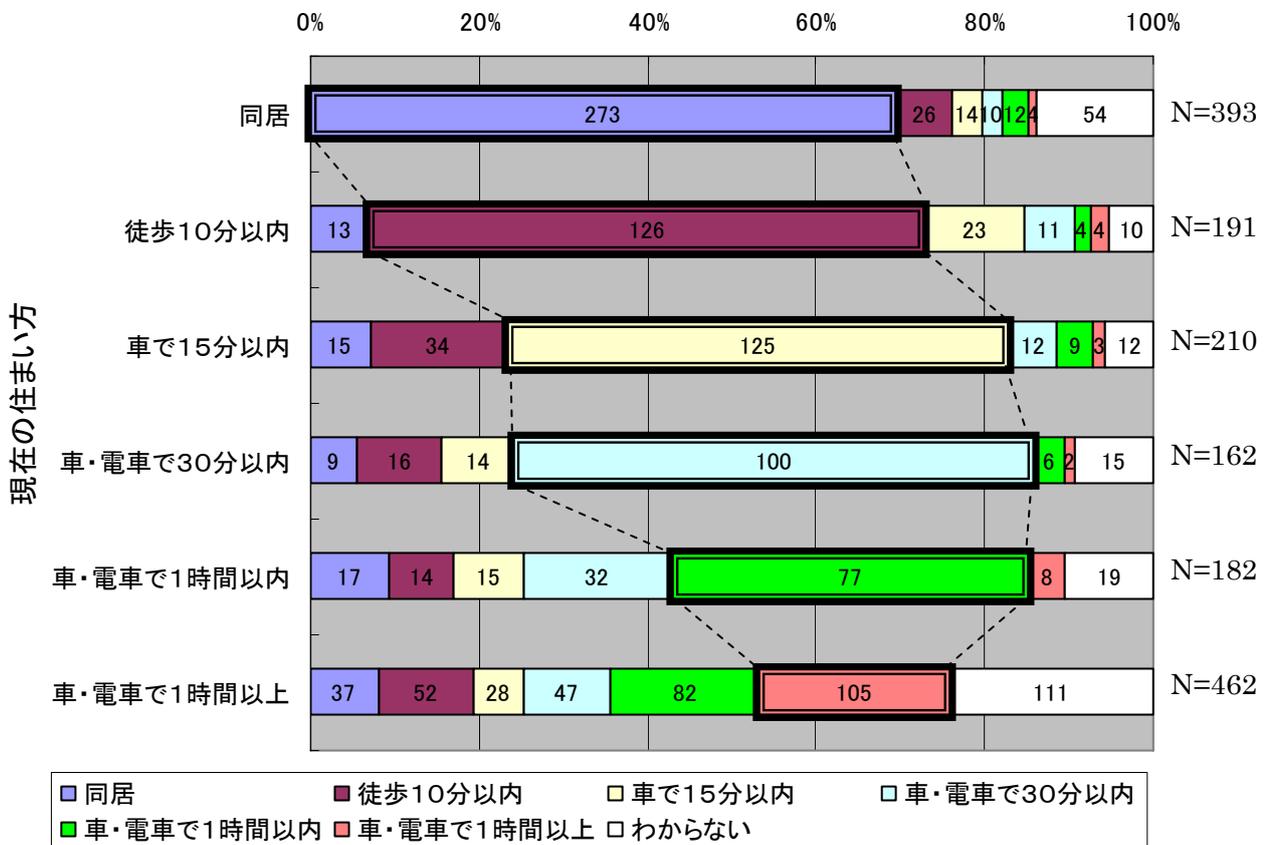
N_{total} = 4,787

(3) 50代既婚者とその親との住まい方の将来意向

50代既婚者について、親との住まい方の将来意向をみると、(2)に示した既婚者全体のアンケート結果と全体的な傾向は一致している。

異なる特徴としては、現在「同居」している人のうち、「同居」を継続したいという意向が約69%となっており、既婚者全体の結果の約62%と比較して約7%ポイント高くなっている点があげられる。

図表4 50代既婚者とその親との住まい方の将来意向（現在の住まい方別）



注) 現状と同じ住まい方は太枠表示

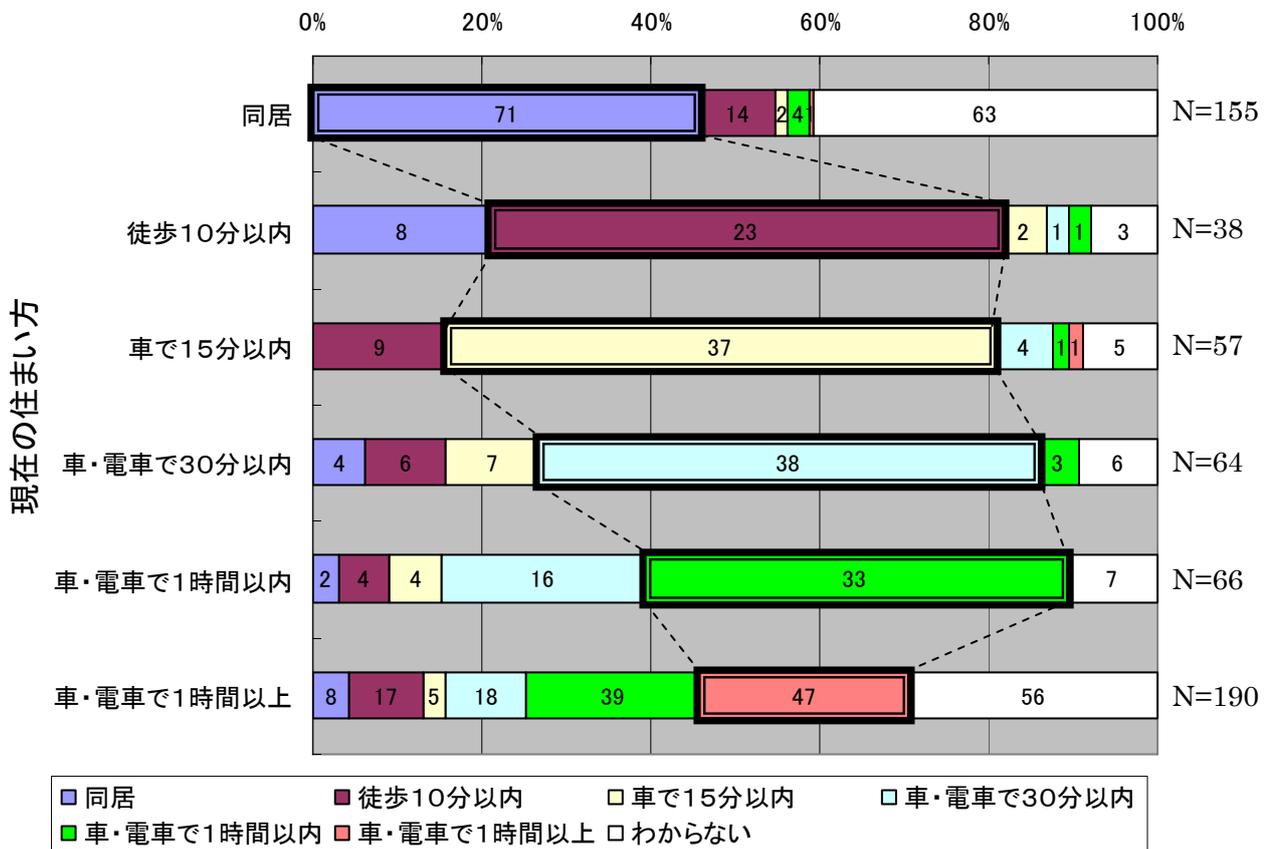
Ntotal = 1,600

(4) 60歳以上既婚者とその親との住まい方の将来意向

60歳以上の既婚者について、親との住まい方の将来意向をみると、(2)に示した既婚者全体のアンケート結果と全体的な傾向は一致している。

異なる特徴としては、現在「同居」している人のうち、「同居」を継続したいという意向が約46%となっており、既婚者全体の結果の約62%と比較して約16%ポイント低くなっている。また、現在「徒歩10分以内」に住んでいても将来の「同居」を希望する人が約21%と多くなっている点があげられる。

図表5 60歳以上既婚者とその親との住まい方の将来意向（現在の住まい方別）



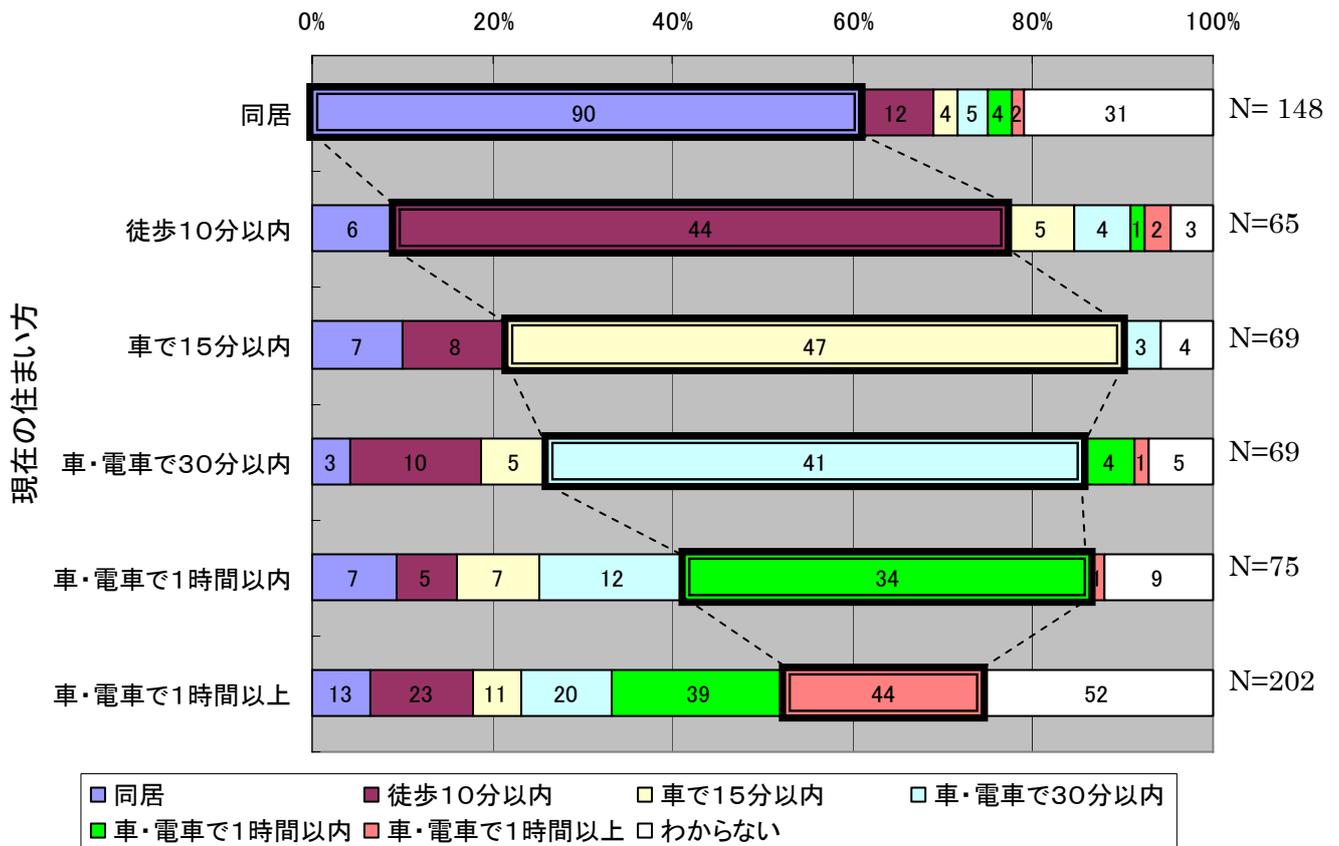
注) 現状と同じ住まい方は太枠 表示

Ntotal = 570

(参考資料1) 団塊の世代を含む「55-59歳」既婚者とその親との住まい方の将来意向

団塊の世代を含む5歳階級「55-59歳」の既婚者について、親との住まい方の将来意向をみると、(2)に示した既婚者全体のアンケート結果と同様の傾向である。

図表6 団塊の世代を含む「55-59」歳既婚者とその親との住まい方の将来意向
(現在の住まい方別)



注) 現状と同じ住まい方は太枠 表示

Ntotal = 628

(参考資料2) 既婚者とその親との同居・近居理由

図表7 既婚者とその親との同居・近居理由 (複数回答)

